

1 日時

令和4年8月9日（火）13：30～15：15

2 場所

市民福祉プラザ5階 大会議室

3 主な質疑

・ 議事(2) 委員長選出

（委員）

鹿児島国際大学の高橋委員を委員長に推薦する。

（事務局）

他に意見等なければ、高橋委員に委員長をお願いする。

・ 議事(3) 第5期地域福祉計画（成年後見制度利用促進計画・再犯防止推進計画）について

（委員）

成年後見人制度の報酬助成について、詳しく教えてほしい。

（事務局）

成年後見人が被後見人に対して行う色々な支援に対して、被後見人は報酬を支払うが、報酬の支払いが困難な方に対して助成を行うもの。

（委員長）

助成の金額は、ケースによって異なるか。

（事務局）

金額はケースによって異なり、助成の対象者は、生活保護受給者や負担が困難と市長が認めた方となっている。

（委員）

鹿児島市は人口も多く、他の地域に比べると恵まれていると思う。鹿児島市も若者を県外に出さない取組を行っていると思うが、みんなで、地域に若い人たちが残れるような働きかけを行っているかといけない。10年後、20年後を考えた時に、支え合う人たちが少なくなる中、地域の人達が自分たちのことだと思って、取り組んでいかないとけない。地域の人達に具体的にどのような取組をしてほしいか示して、地域の人達が必死にみんなで協力できる形を作れたらよいと思う。

（事務局）

地域共生社会の実現に向けて、地域のみなさんが、世代を問わず支え合う体制を地域福祉計画に基づき進めていきたい。

（委員長）

鹿児島市は地区ごとの福祉計画があるが、地区会議の機能を強化していくべきだと思う。市全体で見ると課題が見えにくいですが、地区ごとに見ると色々な課題があるのではと思う。

(委員)

一般の人は、校区社会福祉協議会や地域コミュニティ協議会がどう違うかなど分からない。また、地域の人から相談を受けた時に、どこに聞けば分からないことがあるので、どこに聞けばいいか教えてくれるところがあればよい。

(事務局)

地域福祉館もあり、地域福祉支援員もいるので、身近な地域では、地域福祉ネットワークを活用していただきたい。また、本庁と谷山支所には福祉に関する総合相談窓口もある。

(委員)

本庁と谷山支所に窓口があるが、受け身のような形で相談を受けるのではなく、例えば、市民のひろばで、相談窓口の積極的な情報提供などはしているか。

(事務局)

周知については、今後、参考にさせていただきたい。

(委員長)

校区社会福祉協議会や地域コミュニティ協議会の関係などを地域住民に分かっていただくよう、アナウンスの仕方を工夫する必要がある。窓口については、議事(5)の重層的支援体制整備事業の検討を進める中で、今のような意見を吸い上げていってほしい。

(事務局)

窓口がたくさんあって分かりづらいとの意見はよく聞いている。現在、重層的支援体制整備事業の庁内連絡会で相談窓口の検討を行っているが、今でも出来ることがないか、問題提起して、出来ることから取り組んでいきたい。

- ・ 議事(4) 第5期地域福祉計画に関連する市の事業について  
意見なし

- ・ 議事(5) 重層的支援体制整備事業について

(委員)

相談しやすい体制づくりは、事業所や相談員、ケアマネジャーにとって、とてもありがたい取組である。どこに相談したらよいか分からない時に、窓口があれば本当に助かる。

(委員)

先日、ニュースで、東南アジアの女性が日本に働きに来ていて、出産する際、病院に受け入れられなかったという話を聞いた。外国人に日本を嫌いになってほしくない。外国人への手厚いケアが必要だと思った。また、65歳の障害者がいて、地域包括支援センターに相談に行ったら、障害者基幹相談支援センターに行くよう言われて、忙しい中、大変だった。困難を抱えた方へのサービスがスムーズにいけばよい。

(事務局)

多文化共生の取組の中で、国際交流センターにおいて、通訳サービスの導入など外国人への相談支援を行っている。

(委員長)

「住み慣れた地域で」という言葉をよく使うが、住み慣れていない人たちへの支援が大事である。また、外国人向けの支援を広げるような視点も必要だ。

(委員)

重層的支援体制整備事業を初めて知ったが、重層的支援体制整備事業やアウトリーチという言葉は、中小企業の人達には分かりにくい。今後、事業を展開する中で、分かりやすい表現で、一目で分かるような取組にしてほしい。また、鹿児島市は、多機関をコーディネートするために、新たに課を設置するのか。

(事務局)

今後、分かりやすい表現となるよう検討したい。組織体制については、現在、検討中である。

(委員)

多機関のコーディネートは一定の権限がないと難しいと思った。鹿児島市が行うのであれば地域福祉支援員も動きやすいが、NPO等に委託するとなると、やりにくくなるのではないかと思った。

(委員)

重層的支援体制整備事業は大事な取組であり、この事業を支えるのは、地域のネットワークである。高齢者クラブとしても努力したい。

(委員)

重層的支援体制整備事業は良い取組だと思った。相談先が分からないことが多い。自ら相談できる人はよいが、相談に行けない人を支えて、発見していくためには、地域の連携が不可欠だと思った。また、高齢者や子育て世帯だけではなく、それ以外の働いている世代の人達が関わっていくことも欠かせないので、そのような人達が関わられるような環境づくりも大切だと思った。

(事務局)

重層的支援体制整備事業の根本は、地域のネットワークや地域づくりだと思っている。

(委員長)

地域福祉計画にあるとおり、「地域住民が主役の福祉活動の推進」や「多様な主体の参画」を大事にしたい。

## ・その他

(委員)

市民のひろばのページ数を増やして情報量を増やせないか。配布直後に捨てられているのをよく見る。実際に、読んでいるかどうか、調査をして、少しでも多くの人に読んでいただく工夫が必要ではないか。

(事務局)

市民のひろばは、改良を重ねて今の形になった。情報が多くて読む気にならないという意見もあったと聞いている。ポイントのみ記載し、HPを紹介するなど、デジタル化にも対応してきているが、それでも、見ない方がいるという現状もあるようなので、ご意見は担当課に伝える。